



出前講座報告書



福島県立医科大学

性差医療センター
災害医療総合学習センター
医学部公衆衛生学講座

いわき市総合保健福祉センター

第1回：平成28年1月5日（火） 第2回：平成28年3月7日（月）

Vol.9

ヘルスリテラシー ～健康情報を使う力、伝える力～

ヘルスリテラシーは、健康に関する情報を住民が入手して、理解し、使おうとする知識と技術だけでなく、保健医療従事者側が伝えるスキルまでも含みます。この研修では、伝えるスキルに注目しました。

講義の様子



第1回目は、ヘルスリテラシーの概念と重要性に続いて、健康情報のわかりやすさを評価するツールについてでした。課題の文章のわかりやすさを、グループで評価する演習を行いました。第2回目の内容は、健康情報をより分かりやすく改訂するテクニックについてでした。



本来は第2回目後の1か月間で、学んだ知識と技術を実務に応用する期間を設け、振り返りアンケートを行うのですが、残念ながら年度末で参加者の異動が予想されたため、実施しませんでした。皆様、活用できているでしょうか？



講師紹介



福島県立医科大学
医学部公衆衛生学講座
後藤 あや先生

平成7年山形大学医学部卒業。平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了後、米国ポピュレーション・カウンシルのベトナム支部勤務を経て、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、現在、准教授。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。

アンケート集計

1回目の参加者は21名、アンケート回収は19名
2回目の参加者は10名、アンケート回収は10名

評価項目	「そう思う」*	
	1回目	2回目
研修の資料や進行について		
配布資料は適切だった	94%	100%
時間配分は適切だった	83%	80%
進行は適切だった	83%	90%
研修の内容について		
講義について理解できた	89%	70%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	95%	90%
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	83%	80%



1回目



2回目

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

ヘルスリテラシーの視点を身につけることについての自由意見です。

「よりわかりやすく、伝えていこうという意識、視点を持ち実行しようと思う」
「資料を相手（住民）の立場に立って分かりやすいものにかえていく」

復習ポイント



思い出せない時は、配布資料を見直してください。

- ・情報のわかりやすさを評価するツールは？
- ・分かりやすく伝えるポイントは？

編集後記

ヘルスリテラシーの視点を
持って分かりやすい情報をつくるプロセスは、事業目的の確認、チームワークの向上、そして提供するサービスの向上にまでつながります。是非、ツールを使ってみてください。
講師としての反省点は、進め方が早すぎたようであることです。研修の内容をリニューアルします。今後は数値データの伝え方に焦点を絞って解説する予定です。もしご希望がありましたら、またのご参加をお待ちしております。

（後藤）



出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。